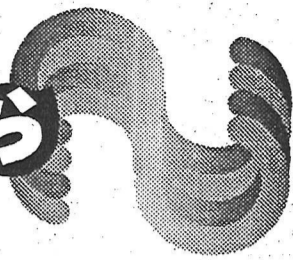


# 異界 ゆらゆら 心めぐり



太陽の日差しが強い。茅ヶ岳(1704m)を背にして立つ、鳳凰三山と南アルプスが目前に迫り右手に八ヶ岳が連なる。周りは一面ひまわり畑。緑の葉をつけた幹茎は大きく育ち、今月25日からの「明野サンフラワーフェスティバル」では、黄色いひまわり畑が丘を埋め尽くす。山梨県西北部に位置する明野村は、太陽とひまわりの「日照時間日本一」の里だ。

ひまわり畑は、温泉付き保養施設説明

野ふるさと太陽館」周辺に広がる。4カ所の計3・6段に25万本が輝いて揺れ、昨年は15万人の観光客が訪れた。ひまわりの花ごは「あなたは素晴らしい」を思わず知らず「おやあ」というものだ。

同村が「ひまわりの村」づくりに乗り出したのは6年前。村長を委員長とする事業実行委員会を結成し、遊休地に種をまいた。ひまわりでは、すでに北海道・北竜町や兵庫県・南光町などがある。返ってきた答えは、「日照日本一、ですよ。太陽、そしてひまわり」。福田紘・村役場総務課長(55)は「外国映画『ひまわり』に見事な黄色い花の畑が登場。それを覚えていた若者が言い出した。水田転作した他町などは違つて、こは花に加えて周りの景観が素晴らしい」と胸を張る。

「日照日本一」はどこなのか。このデータを発見したのは村立明野中学校の生徒たちだ。「明野中気象観測委員会」が1980年、理科担当の口野道男教諭(現・韮崎市教育長(64))の指導の下に日照、日射などの観測を開始。翌年、日照日本一が分かった。いまも続く観測は、いわば村の宝である。

昨年の同村の総日照時間は26664時間。日照時間の多さで知られる甲府

## ひまわりの村



黄色いひまわりに埋め尽くされる明野の里。観光客も増えている＝昨年夏に撮影

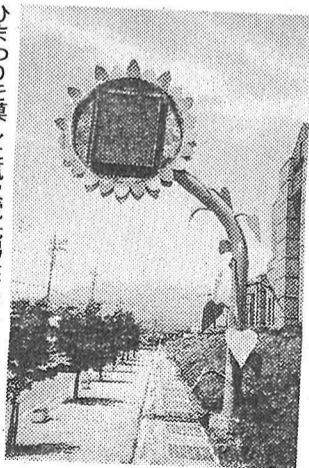
市よりの約400時間も多い。一日の平均日照を7時間として、明野は甲府より年間55日も太陽の恵みを多く受けていることになる。月別で見ると、4月が一番多く261・0時間(甲府市231・6時間)。日照日本一は日本気象協会のお墨つきもある。同観測委員会は「茅ヶ岳、南アルプス、八ヶ岳などに囲まれた地形で、雨雲がブロック

2度を示していた。同村を訪れた6月末でもこの曇りだ。村を歩く、住宅の屋根に日射で暖める温水器が目立つ。村内16000戸の半数に載っているという。村の子供たちは外に出て遊ぶことが多いせい、黒く日焼けしているように見えた。茅ヶ岳のふもとに東京大学宇宙線研究所明野観測所がある。ここで最近

## 日照日本一の 恵みサンサン

されるのではないかと推測する。役場の県道わきにある、ひまわりをかたどった気象電光掲示板は気温36・

予測される宇宙線エネルギースペクトルの上限を超えたとしても宇宙線が観測され、その起源をめぐって世界中の専門家の間で激論が交わされている。林田直明所員(50)理学博士は「はいやあーまいった」といいながら、困っているというよりは楽しんでるという。「サン、こうしたテーマを与えてくれたのは日照日本一の明野だからです」と付け加えた。



ひまわりを模した気象電光掲示板。データは近くの明野中気象観測所から、自動的に送られてくる。

## 日本渡来は江戸時代

ひまわりはキク科の二年草。原産地はメキシコからペルーにかけてとされるが、カナダから北アメリカにかけて野生し、中南米に及んだとの説もある。

コロンブスの米大陸到達後、タバコなども欧州に持ち込まれた。日本への渡来は欧州より約100年後の江戸時代。寛文6(1666)年ごろの書に記されている。

ギリシャ・ローマ神話のひまわりは、海神の娘クリュティエが太陽の神アポロに恋をし、ひたすら待ち続ける草花に変わったと優しく伝える。フランスの太陽王ルイ14世や画家ゴッホが愛したのは有名だ。

【石川 誠】